

平成 15 年度老人保健健康増進等事業報告書

痴呆性高齢者の在宅生活を支える地域ケアサービスの方策に関する研究  
下部研究

ボランティア育成・活用に関する研究報告書

社会福祉法人 浴 風 会  
高齢者痴呆介護研究・研修東京センター

はじめに

痴呆性高齢者ケアの分野では、グループホーム、ユニットケアという新しい居住(援助)形態の出現・普及とともに、個人の人権、尊厳、自立を重視した個別的ケアが促進されている。しかしながら、いわゆる従来型といわれる4人部屋を中心とする回廊式等の特別養護老人ホームや老人保健施設あるいは療養型医療施設で生活する痴呆性高齢者も多く、近々にこれらの施設のすべてがグループホームやユニットケア施設に切り替わるわけではないので、在宅生活者を含めて居住場所を問わない「人権、尊厳、自立を重視した個別ケア」のあり方を構築していく必要がある。

本研究では、

※「地域生活支援」は在宅生活者に限定した援助コンセプトと考えるべきではなく、居住場所を問わず、痴呆性高齢者を含むすべての高齢者が地域を生活の場とすることを理念として設定し、高齢者が社会と隔離された生活を送ることを余儀なくされていることが多いのが実態である従来型特別養護老人ホームと比較的外出支援を行いやすいグループホームにおいて、外出支援のあり方を検討することを目的とした。目標は、ボランティア等を活用した随意の外出支援体制の構築(高齢者の地域社会資源の活用)である。

特別養護老人ホームに生活する高齢者の外出支援に関しては、職員や高齢者本人の意識・意欲の問題だけではなく、財源・人手不足を原因とする援助体制の問題があり、行動の自由に付随する事故に対するリスク・マネジメントの問題もある。家族の意識や契約のあり方という問題もある。したがって、本年度は外出支援の基礎的研究の年と考え、職員および高齢者本人の意欲の醸成と絶対に事故のない形での外出支援の試行によるノウハウの修得を課題とした。

結果としては、感染症の流行等突発的事態の発生により思うように進まなかった点もあったが、一定の成果は得られたように思われる。このような研究は、単年度で終了・完成するものではないことから、実践手法の一般化と全国普及を目標に、今後も研究が継続されることが望まれる。

平成16年3月31日

研究委員会委員長

高齢者痴呆介護研究・研修東京センター副センター長 中島 健一

## 目次

はじめに

第1章 現状と研究の意義	3
第1節 痴呆性高齢者の捉え方と研究の意義	3
第2節 介護老人福祉施設の現状と職員	9
第3節 施設で生活する痴呆性高齢者の外出を支援する意義	12
第2章 外出支援の実践	14
第1節 意向調査	14
第2節 実践の結果	17
1. 打ち合わせ会議	17
2. 外出支援試行の内容	29
3. 具体的な試行の内容	30
4. 実践してみたの職員の感想	59
5. 考察	66
第3章 痴呆性高齢者の外出支援における対応(外出支援対応マニュアル試案)	81
まとめ	86